

## 事業の背景・目的

2018年11月に東播磨地域での生息が初めて確認された特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」は、早期に駆除を進めたが瞬く間に広がりを見せており、このままでは一気に拡大し生態系の崩壊だけでなく、農業等への被害が危惧される。そのため、普及啓発を強化するとともに防除体制を確立させ効果的な駆除・防除の実施により自然回復をめざすとともに、水循環の上下流の連携等による地域づくりや地域活性化へとつながりを期待する。



## 事業の内容

### ・東播磨地域ナガエツルノゲイトウ・バスターズによる防除計画の策定

- ア.防除体制の確立  
（官学民連携型防除体制）
- イ.防除エリアの状況把握・調査
- ウ.防除計画の策定
- エ.戦略的な広報活動の実施

#### イ【防除エリアの状況把握・調査】

防除計画の策定に際し、地域全体の現状把握が必要であり、東播磨地域（3市2町）の河川、ため池、水路、ほ場等の繁殖状況調査を行い分布状況の把握を行なった。



#### ウ【防除計画の策定】

防除・駆除方法の検討を行い、現場条件に即し、効率性、効果、経済性など総合的な視点で工法を選定し、実証実験、試験施工を行い、今後のスケジュールや目標を定めた。



## 得られた成果

東播磨管内の及び隣接地域との情報共有する体制を整え、官(県・市・町)学(専門家)民(地元など)連携による防除体制も整った。しかし、各地区の体制には官(市・町)及び民(地元など)の協力人数に差がある状況にあり、今後も、継続して情報発信・情報共有を行ない、十分な体制を整備したい。

駆除・防除方法は各種試験施工・実証実験を行なうことができ、ポンプ式工法、遮光シート工法、漂着防止ネット工法など各現場に即した工法を選定することが可能になった。ナガエツルノゲイトウは定着すると駆除に数年かかることから、5年計画の防除計画書を策定した。

